

3 A案

教材名：南極をめざした日本人	
主題名：困難に立ち向かう強い意志	内容項目：A (4) 希望と勇気， 克己と強い意志

- 1 **ねらい** 自らの可能性を信じ、目標や理想に向かってあきらめずに、最後までやりとげようとする心情を育む。

2 授業展開例

学習活動（主な発問と予想される生徒の反応）
<p>◇ 自分の目標について発表し、本時のテーマを知る。</p> <p>① 今の目標は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none">・部活動で、先輩のように上手になること・次の大会で優勝すること・次のテストで〇点を取ること <p>② 今日は、目標を達成することについて考えていきましょう。</p>
<p>◇ 教材を読んで話し合う。</p> <p>③ 「いったん引き返す」と決断した時、野村船長はどんなことを考えていたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none">・せっかくここまで頑張ってきたのに、くやしい・目の前まで来たけれど、みんなの命が危ないからここは引き返そう・くやしいけど、いったん引き返して次の機会を待とう・次の機会が来るまで、準備できることはないか考えよう <p>④ どうして野村船長は南極上陸を達成させることができたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none">・最初の失敗であきらめずに、成功するまで頑張る気持ちがあったから・2回目にはきちんと準備をして、同じ失敗を繰り返さないようにしていたから
<p>◇ 自分との関わりで考える。</p> <p>⑤ 目標を達成する時に大切なことは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none">・失敗から自分の足りなかったところを反省すること・同じ失敗を繰り返さないように、準備や計画をしっかりとすること・一度の失敗であきらめずに、次のチャンスに生かすことができるよう頑張ること <p>⑥ 今日の授業を通してあなたが学んだことを振り返ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none">・すぐにあきらめずに、何度も挑戦する・毎日、目標を持って頑張る

3 指導上の留意点及び工夫

- ・①では、事前にアンケートを取っておいて、その集計を活用することも考えられる。
- ・教材を読む際には、地図や写真を活用し、南極に行くことがいかに困難であったかを示す。
- ・②で「野村船長の目標は何？」と確認し、今日のテーマとのつながりを意識させる。
- ・④の補助発問として「成功させるためにどんな努力をしたのだろうか」と聞くこともできる。

4 参考資料

- ・映像資料集2（中学校）「3 南極をめざした日本人」

3 B案

教材名：南極をめざした日本人

主題名：自分で考え実行し、責任をもつ

内容項目：A (1) 自主, 自律, 自由と責任

1 **ねらい** 自主的に考え判断し、誠実に実行して、その結果に責任をもとうとする判断力を養う。

2 授業展開例

学習活動（主な発問と予想される生徒の反応）

◇ 南極に行くことがいかに困難であったかを知り、感想を伝え合う。

（この段階では映像資料ではなく写真や地図を活用する。）

- ・南極に着くまでには大変なことがあっただろうな
- ・何ヶ月間もかかる上に、命をかけているのはすごい

◇ 教材（最初からP7まで）を読んで話し合う。

① あなたが野村船長なら、この後どうしますか。それはなぜですか。

- ・このまま進む 危険はあるかもしれないけれども、成功する可能性もあるから
- ・このまま進む 夢にまで見た南極大陸なのであきらめきれない
- ・引き返す 船員の命が大事だから、やむを得ない
- ・決めるのは簡単ではない 仲間と話し合い、意見を参考にして決める

◇ 教材（P8から最後まで）を読んで話し合う。

② 野村船長の判断についてどう思いますか。

- ・船長として、みんなの期待にこたえたいけど、命を守る責任もあり、迷ったと思うが、正しい判断ができたのがすごい
- ・みんなから「進みたい」という意見があったと思うが、船長として大切なものは何かを見失わず、自分で考えて決めたのが素晴らしい
- ・あきらめるのはつらかったと思う 進みたいという気持ちだけで決めなかったのが大切だと思った

◇ 映像資料を視聴する。

◇ 自分自身を見つめる。

③ あなたは、物事を判断するとき、大切なことは何だと思いますか。今日の授業を通して考えたことと合わせて書きましょう。

- ・状況を観察したり情報を集めたりして、適切な判断ができるようにする
- ・優先順位を考え、深く考え判断する 下した決断には責任をもつ
- ・他の人の意見を聞くなど、客観的に物事を捉える視点をもつ

3 指導上の留意点及び工夫

- ・後半では、教材から離れて、時事や学校生活などの事例を活用し、実際の場面でどのように判断をするのかを考え、話し合うことも効果的である。

4 参考資料

- ・映像資料集2（中学校）「3 南極をめざした日本人」